

公表

事業所における自己評価総括表

| | | | | |
|----------------|-----------------------------|-----|--------|------------|
| ○事業所名 | こども発達サポートセンター るぼろ（保育所等訪問支援） | | | |
| ○保護者評価実施期間 | 令和7年9月16日 ~ | | | 令和7年12月26日 |
| ○保護者評価有効回答数 | (対象者数) | 16人 | (回答者数) | 16人 |
| ○従業者評価実施期間 | 令和8年1月5日 ~ | | | 令和8年1月16日 |
| ○従業者評価有効回答数 | (対象者数) | 1人 | (回答者数) | 1人 |
| ○訪問先施設評価実施期間 | 令和7年9月16日 ~ | | | 令和7年12月26日 |
| ○訪問先施設評価有効回答数 | (対象数) | 12園 | (回答数) | 9園 |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | 令和8年1月16日 | | | |

○分析結果

| | 事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること | 工夫していることや意識的に行っている取組等 | さらに充実を図るための取組等 |
|---|---|--|---|
| 1 | ●訪問時の子どもの様子について、障害特性や行動の背景などを分析し、資料にまとめてることで、口頭での説明だけでなく視覚的に見て確認できるよう努めている。 | ●毎回の訪問資料を比べながら、保護者の方や現場の先生方が子どもの成長を確認、実感できるよう努めている。実感することで、前向きに子育てに向きえたり、先生方の自信に繋げていくよう意識している。 ●行動の分析からどんな支援が考えられるか例に挙げたり、アドバイスを行ったりしながら、専門職が決めた支援方法ではなく、集団の中でできる方法を現場の先生が考え、実践できることを目標としている。 | ●集団の中でできる支援目標を考え、子どもを見る視点や集団の中でできる支援のヒントを伝えられるよう努めしていく。 |

| | 事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること | 事業所として考えている課題の要因等 | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等 |
|---|--|-----------------------------|--|
| 1 | ●保育所等訪問支援に携わる職員の確保。 | ●訪問支援員として必要な知識と助言ができる職員の育成。 | ●併設している児童発達支援、放課後等デイサービスの職員と訪問に同行する機会を作ったり、ケース検討会の中で行動の分析から必要な支援方法を考える機会を作る。 |